

第12号

会報 めいおんの会

発行 平成27年3月20日

「めいおんの会」(名古屋音楽大学出身教員の会)

事務局 名古屋市緑区大清水四丁目522

TEL・FAX (052) 877-1243

発行責任者 会長 百合草 薫

悲しみを越えて

名古屋音楽大学同窓会 会長 野村 朗

(S51卒 短大10期)

めいおんの会の会員の皆様、私は昨年4月に名古屋音楽大学同窓会会長に就任しました野村 朗です。前同窓会会長の堀江幹雄さんが癌との戦いに敗れ、ご逝去されたことを受けての就任でした。

亡くなる10日前でしたか、彼からFAXが届き、続いて電話がありました。「卒業生へのごあいさつと諸連絡に出られそうもないので、よろしくお願ひしたい」と言います。「分かったから心配しないで。それよりも病状はどう?少しはいいの?」「・・・」。それが堀江さんとの最後の会話になりました。FAXには、事務的説明の詳細な台本が、弱々しい筆致で克明に記されており、会長あいさつの欄だけ原稿がなく、「野村さん、お任せします」と書かれてありました。

ひとは、なぜ死ぬのでしょうか。私は2年前の春、東日本大震災の跡地、南三陸町防災庁舎の前に立ちました。海辺の市街地が全部なくなって「まっ平ら何もない大地」と化し、そこに忽然と、防災庁舎の廃墟が立っていました。曲がった鉄骨を吹き抜ける風がヒューヒュー音を立て、建物が慟哭しているようでした。2万人の方々の無念を一度に拾い尽くすことはできませんが、誰か、大切なひとりのいのちを胸中に生かし続けることは貴重です。

「死者を忘れない」そのことの上に「明日」がある。次の希望が見えてくる。

「教育の意味」を考えます。科学技術は綿々と受け継がれ更なる発展を遂げてまいりましたが、「こころ」はどうでしょう。先達の喜びを自らも喜び、先達の悲しみに寄り添って悲しみ、先達の「こころ」をこそ受け継いで「その先を、ともに生きる」ことが、今を生きる者の使命、そして「教育の意味」もそこにあります。あの防災庁舎で亡くなる直前まで「高台に逃げて!」と呼びかけ続けた遠藤未希さんを、亡くなる直前まで同窓会に腐心された堀江幹雄さんを、今を生きる私たちが「忘れない」こと、そのことの大切さを次代の若者に確実に伝えていくことを、どうかみなさんをお願いしたいと思ひます。「いのち」は、何にもまして大切に、代えがたく、一つひとつは「一瞬の光芒」に過ぎませんが、しかしそれは、綿々と繋がっていく「大河」でもあります。「こころを込めて。精一杯、そのいのちを生きる」。その先に未来があり、「次の希望」に引き継がれていくのです。

教育の職にある同窓の皆さん、どうか、その職を通じて次代の若者たちに、このことを伝えていっていただきたく、切に懇請いたします。私も、できる限りの努力を尽くしますから。

平成27年度 総会・研修会・懇親会のご案内♪♪

【期日】8月23日(日) 午前:総会・研修会、午後:懇親会 【会場】名古屋音楽大学

【内容】「鍵盤ハーモニカ」の楽しさと指導のノウハウ<仮題> (演奏と実技)

【講師】名古屋音楽大学客員教授 松田 昌先生

卒業生の教員の皆さんに、「授業に役立つ内容を熱い思いで語りたい」と話しておられました。滅多にできない研修会です。鍵盤ハーモニカにきっと新しい発見があることでしょう。乞う御期待を!

若手教員海外研修で学んだこと

名古屋市立名城小学校 齊藤 玲子

(H11 卒 20 期)

「海外研修は、絶対ためになるよ」勤務先の先生からのこの言葉をきっかけに、私は、若手教員海外研修に応募をしました。それまで、『若手教員海外派遣研修』という制度が、市教育センターにあることすら知らなかった私は、「海外で研修ができる」という言葉に惹かれました。

私が応募を決めた平成23年度は、未曾有の被害をもたらした“東日本大震災”の爪痕が被災地に色濃く残っているころでした。日本全国のみならず、世界各国から応援物資や応援メッセージが届く中、私は何気なく見ていたテレビの画面から、音楽のもつ力を再認識することとなります。

それは、「We Love Japan」「Hope and Recovery」というメッセージと共に、ニューヨークの学校へ通うアメリカの子どもたちが、被災地を励ますために応援ソングを届けてくれた映像でした。心に響く歌声から、音楽のもつ素晴らしさを感じたことはいまでもありませんが、と同時に、「どうしたら、このような歌声や表現力が子どもたちに身に付くのだろう」「アメリカの子どもたちがもつ表現力の源は一体何なのだろう」という疑問がわきました。そして、その源を探るべく、私はアメリカ合衆国を訪問地として希望し、研修生として13日間派遣されることになりました。

研修生に決まってからは、不安の連続でした。訪問先の決定は、全て自分でアポイントメントし、決定していかななくてはなりません。海外に全く知り合いのいない私は、とにかく「だめでもともと」の精神で、日本はもとより、海外にもメールを送り続け、訪問の目的を伝え、とにかく情報収集に奔走しました。教育センターからの書類の期限が迫っていても、海外からのメールの返信がこなかったり、訪問先が決まらずに焦ったりと、実は研修前から、すでに研修は始まっていました。行動力や柔軟性もこの研修には必要な力だったのです。私の場合、とにかく強い信念をもって突き進む力が、この研修で得た力の一つだと感じています。

今回の研修で、私は3つの州（インディアナ州・ペンシルベニア州・ニューヨーク州）の小中学校を中心に訪問をさせていただきました。その中で共通して感じたことは、音楽における基礎的な力の育成に力を注いでいたということです。豊かな表現力は、徹底した低学年からの指導にあることを訪問先の授業から感じました。低学年から、繰り返しリズム学習を行うことで、感覚的に拍の流れやフレーズを感じ取ることを目指し、後の即興演奏に生かす。また、ピアノの音に頼らず、自分の声や周りの声に耳を傾け歌う習慣を付けることで、聴く力を養い、正確な音程を身に付ける。このような継続的で地道な指導が、少なからずあの素晴らしい応援ソングに表れているのだと感じました。

今年度、私は小学1年生の担任をしています。聴く力の素地を作るため、できるだけピアノの音を出さずに歌を歌うように心掛けています。テレビやインターネットからは様々なジャンルの音楽が流れてきますが、学校教育の中で、「よい音」や「よい音楽」を聴き分ける耳を育てることが大切ではないかと考えています。また、長いスパンで物事を考え、そのために今何ができるのかを考えながら授業を進めています。これも、この研修で得た成果だと感じています。

インディアナ大学へ訪問した際、音楽教育学部長のリチャーズ氏が次のような言葉を話されました。「これから未来を創っていく子どもは、一人一人がデザイナーにならなければならない。そのために、芸術分野はなくてはならない教科である」この言葉を胸に、今後も指導にあっていきたいと思います。

【部活動】愛知県吹奏楽コンクール◆石村佳愛（名・高杉中・H22 卒 31 期）＜名古屋＞金賞

◆横井千裕（丹羽高・H23 卒 32 期）＜東尾張＞金賞＜県＞銀賞

＝編集後記＝ ◆同窓会長様からメッセージをいただきました。折に触れて子どもたちに、「精一杯生きること」「命の大切さ」を語りたいものです。◆会員募集中。未加入の方にもお誘いいただき、ぜひご入会を！

